



## 勝ち負けの向こう側

校長 土谷 昌秋

今から16年前の7月、新聞に一人の高校球児が胴上げされている写真が載った。  
しかも、とびきりの笑顔で。  
しかし、それは、16点差、5回コールド負けをしたある高校野球部の主将である。

彼が主将を任されたのは1年生の夏。まだ中学校から高校へ進学して間もない頃。2年生が全員退部してしまったからだ。冬になると、同学年の仲間も「練習がきつい」「バイトがある」と言っては、1人抜け、2人抜けと練習に来なくなった。彼自身も「もうやめよう」と何度も思った。

しかし、「俺は主将だから」と自分に言い聞かせ、たった一人で走り込み、素振りを続けた。

春になり、たった一人で黙々と頑張る彼の姿を見て、部員が一人、また一人と戻ってきた。それまで一人ではできなかったキャッチボールができるようになり、新入部員も含めて野球ができる9人がそろると、「野球ってこんなにも楽しいものだったんだ」と喜び以上に驚いた。

彼が2年生の夏。無残にも初戦敗退。

そして3年生の夏。そう最後の夏。

何と初戦を突破したのである。うれし涙を流し、一勝をかみしめて臨んだ2回戦。冒頭の通り、最後の夏は幕を閉じた。

しかし、その写真は満面の笑顔だった…

この主将が宙に舞ったとき、このチームは勝ち負けの向こう側にあるものを、本物の何かをそこにいた全員でつかんだに違いない。

今、苦しい、辛いと思っている人、頑張りすぎなくていい。  
ただ、やれるところまではやっごらん。  
きっと今までと違った景色が見えるはず…  
そんな夏であってほしい。

夏はもうそこまで来ている…



勝ち負けを越えろ

